

(1)生徒の体力の現状

○男子において、県平均と全国平均を上回った種目は、1年生では長座体前屈、20mシャトルラン、50m走の3種目、2年生では握力、ハンドボール投げ、立ち幅とび、50m走の4種目、3年生では反復横とび、50m走の2種目であった。

○女子において、県平均と全国平均を上回った種目は、1年生では握力、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅とびの4種目、3年生では長座体前屈、50m走の2種目であった。また、県平均のみ上回った種目は、2年生で握力の1種目、3年生では反復横とびの1種目であった。

○男女学年別に県平均と全国平均を上回っている種目をみると、1年生女子が半数の4種目が最高で、あとは1～3種目にとどまった。しかし、昨年度は全体の5種目に対し、今年は13種目になった。

●男子において全学年において上体起こしが、また、1年生と3年生で握力、1年生と2年生で反復横とびが大きく県平均を下回るなど、筋力や敏捷性に大きな課題がある。

●女子では2年生と3年生で上体起こしが県平均を大きく下回り、男子同様に筋力に課題がある。2年生では反復横とびが大きく県平均を下回り、敏捷性にも課題がある。

●男女とも、筋力、敏捷性の面で県平均を下回る種目があり、大きな課題である。

(2)30年度の具体目標の達成状況と課題

【新体力テストの総合評価でC以上の生徒を75%以上にする】

○C判定以上の生徒は男子が73.6%と下回ったが、女子が88.6%と高い数値を示し、男女で81.7%で目標を上回った。

【新体力テストの総合評価でE判定の生徒を5%に止める】

○E判定の生徒は男子が6.9%と下回ったが、女子が3%、男女で4.8%で目標を上回った。

○1年生では4月当初より集団行動に重点を置き取り組んだ結果、学級集団で互いに関わり合いながら活動することの大切さに触れることができた。

○単元により体幹トレーニングを取り入れて行った。

○新体力テストでは、自己目標を事前に設定する時間を設けたことで、自分の目標をしっかりと認識することができ、新体力テストでは昨年度より高い結果を残せた。

○単元により授業にITCを取り入れることで、個々の課題が分かりやすくなり、活動が活発に行われた。

●メディア接触時間に関する内容を把握できる調査ができなかった。

●新体力テストについては、個々に日常の運動実践ができるような振り返りが十分に実施ができなかった。

●ITCがより活用ができるよう、機器の充実が必要である。

(3)31年度の取組【対策】

①学校における取組

- ・全学年で年度当初より集団行動に取り組み、学級集団で互いに関わり合いながら活動することの大切さに気付く機会をもつ。
- ・年間を通し、計画的に体幹トレーニングを実施するほか、敏捷性を高める運動や持久力を高める運動を継続的に取り組む。
- ・新体力テストでは、自己目標を事前に設定する時間を設け、新体力テストに向け意欲の向上を図る。
- ・ICTの活用を積極的に進める。
- ・体育の授業改善をすすめ、個別指導の充実を図る。

②地域や家庭との連携による取組

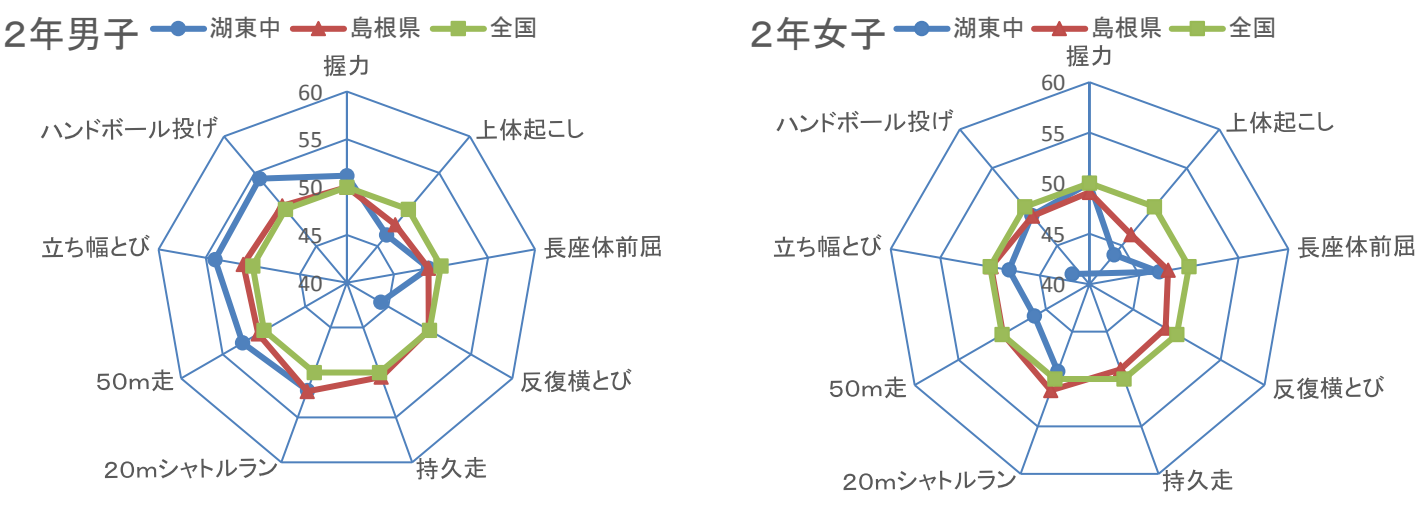
- ・小中一貫教育で取り組むチャレンジ週間で、メディア接触時間や食事の様子を調査するなど、内容の更なる充実を図るとともに、家庭への啓発を推進する。
- ・メディアに関する講演会を継続して行う。

③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組

- ・新体力テストの結果を振り返り、日常生活で運動に取り組む習慣の確立に向けた個人プログラムの設定と実践に向けた取組に着手する。
- ・保健授業(運動と健康、食生活と健康)や家庭科の献立学習などの教科学習や学校保健委員会等で食育の推進する。

調査実施者数(人) 1年(男子48・女子60) 2年(男子47・女子49) 3年(男子49・女子58)

(4)2年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 2年生意識調査の結果

